

別添 「次世代に残したいと思う『ちば文化資産』」候補

番号	ちば文化資産候補の名称	候補の概要	所在市町村
1	稲毛の浅間神社と松林	大同3年(808年)の創建と伝えられ、千葉常胤以来、代々の千葉氏の信仰が篤かったと言われています。安産・子育ての神様として厚く信仰されるとともに、かつて海辺であった名残りの松林が周辺に残っています。子供を抱いてもらおうと健康に育つといわれる「陣中安産の舞」や「スサノオノミコトのオロチ退治」などの神楽も伝えられています。	千葉市
2	猪鼻城跡	1126年に千葉氏の城下町として成立したと伝わる中世千葉の町は、現在の千葉神社から猪鼻城跡周辺に広がっていました。現在でも猪鼻城跡周辺には、千葉氏ゆかりの羽衣の松やお茶の水の伝説の場所や、中世伝を伝えた古寺が多く残されています。	千葉市
3	加曽利貝塚	直径140mでドーナツ形をした縄文時代中期の北貝塚と、長径190mで馬の蹄の形をした後期の南貝塚が連結し、8字形をした貝塚で、日本最大級の規模を誇ります。歴史的価値が特に高く日本文化の象徴としても重要であると評価され、県内で唯一国特別史跡に指定されています。	千葉市
4	千葉市美術館(旧川崎銀行千葉支店本館)	昭和2年に矢部又吉の建築により川崎銀行千葉支店として建設されたネオルネッサンス様式の建物です。中央区役所の建設にあたり、建物を当時の状態で利用できるように、鞘堂方式による保存手法が採用されて現在に至ります。千葉市指定文化財に指定されています。	千葉市
5	千葉御茶屋御殿跡	徳川将軍家が鷹狩りに向かう際の休息所として利用したと伝えられる史跡です。徳川家康の狩猟のために急遽造られた御成街道とともに建設されたと考えられています。土塁や堀が非常に良好な状態で残されており、千葉市指定史跡に指定されています。	千葉市
6	千葉市民ギャラリーいなげ(旧神谷伝兵衛稲毛別荘)	ワイン王として知られる初代神谷伝兵衛が、大正7年に来賓用の別荘として建てた洋館です。建物は1階が洋室で2階が和室の和洋折衷の造りになっています。コンクリート構造の建物としては市内で最も古く、国登録有形文化財に登録されています。	千葉市
7	千葉市ゆかりの家・いなげ(旧武見家住宅)	保養地としての稲毛の歴史を今に伝える貴重な和風別荘建築です。昭和12年には、中国清朝のラストエンペラー愛新覚羅溥儀の実弟である溥傑夫妻が、半年ほどこちらに居を構え、新婚生活を送りました。千葉市地域文化財に登録されています。	千葉市
8	千葉神社と妙見大祭	千葉氏の守護神、北辰妙見尊星王を主祭神として長保2年(1000年)に北斗山金剛授寺として中興開山されました。「通称・千葉の妙見様」と呼ばれ親しまれています。また、毎年8月16日から22日までの日程で行われる妙見大祭は、1127年の第1回以来、一度も休むことなく続いています。	千葉市
9	千葉寺と千葉笑い	和銅2年(709年)行基菩薩の開山した古刹で、坂東観音霊場第29番札所です。春の境内は爛漫の桜花、秋には千年イチョウの葉が黄金色に輝きます。毎年4月、天保年間(1830年頃)から続く「千葉寺大師詣」は近在の四国八十八ヶ所の写し巡礼を巡拝します。「戻り鐘」、悪態まつり「千葉笑い」の所伝の地でもあります。	千葉市
10	千葉の親子三代夏祭り	武者行列やパレード、威勢の良いみこしの渡御、よさこい鳴子踊りなど多彩なイベントが行われ、千葉市の真夏の風物詩として広く市民の心に定着しています。なかでも、太鼓のリズムに合わせて、数千人規模で街を踊り歩く「親子三代千葉おどり」は一番の見どころです。	千葉市
11	千葉ポートタワー・千葉ポートパークと千葉県立美術館	千葉ポートタワーは県民500万突破を記念して千葉港に昭和61年にオープンした断面菱形のガラスの塔です。千葉県立美術館は煉瓦タイル壁の低層建築が四方に広々と伸びた平面形をしています。この二つの対象的な建物の周りには、広々とした緑地の千葉ポートパークが広がっています。	千葉市
12	幕張新都心	職・住・学・遊を備えた街です。デザインが統一されたオフィスビル群、幕張メッセやマリスタジアム・ショッピングモールでは多くの人が集い、幕張海浜公園は憩いとやすらぎの場、幕張ベイタウンはヨーロッパ風の街並みが形成されています。	千葉市
13	市原の柳楯神事	柳楯神事は、飯香岡八幡宮の秋季大祭(旧暦8月15日)の中心的な神事として行われます。柳は、神降臨のための霊木で、八幡神は武神であるため、柳で楯を作ったとされています。また、飯香岡八幡宮は上総国総社であるため、楯は国司の権威を象徴しているとも言われています。市原地区を出た柳楯は二日かかって飯香岡八幡宮へと到着し大祭ははじまります。	市原市
14	上総国分寺跡、上総国分尼寺跡	奈良時代に全国で造られた国分寺の中で、上総国分寺と尼寺跡は、発掘調査によって当時の様子が特に明らかとなり、寺域は僧寺が全国有数、尼寺は全国最大規模を誇っています。尼寺跡では、当時の技法で復元した中門と回廊とともに、出土遺物などを見学できる展示施設が整備されています。	市原市
15	飯香岡八幡宮本殿	「一国一社の国府八幡宮」と呼ばれる由緒ある古社で、創建は白鳳年間と伝えられています。正面3間・側面2間の総丹塗や銅板葺の屋根が印象的な入母屋造。太い木組みや組物・彫刻・面取角柱などの部材は力強く簡素で、室町時代末期の特色を示しています。	市原市
16	西願寺阿弥陀堂附厨子	平蔵の光堂と呼ばれ、中世城郭平蔵城の城主であった平将経が鬼門守護のために建立したと言われています。堂は正面3間、側面3間の三間堂で、屋根は茅葺の寄棟造です。外部の軒回りは二重の扇垂木で、軒の出が深く、三手先詰組とともに美しい構成となっています。	市原市

番号	ちば文化資産 候補の名称	候補の概要	所在市町村
17	鳳来寺観音堂	中世城郭吉沢城の鎮護のために、今は廃寺となった善福寺に建立された茅葺寄棟造の三間堂です。本尊は千手観音菩薩坐像で秘仏とされています。扇垂木・二手先結組などに禅宗様式が見られます。解体修理の際に、現在の位置に移築され、特に紅葉の季節は美しい景観となります。	市原市
18	御奉謝（にらめっこおびしゃ）	御奉謝は、毎年1月20日に大野町の駒形大神社でおこなわれます。氏子が相對してにらみ合い、酒を飲む神事で、その形態から俗に「にらめっこおびしゃ」と呼ばれています。また、当たれば無病息災、福富を得ると伝わる「餅ぶつけ」なども行われます。	市川市
19	行徳神輿とまつり	近世から近代にかけて製塩と船運で栄え、寺社の町でもある行徳の神輿造りは地場産業でした。旧浅子神輿店はそのなかのひとつで、店舗は国の有形文化財に登録されており、再整備後、平成30年度に神輿やまつり・地域文化などの資料が見学できるよう開館します。	市川市
20	下総国分寺と尼寺跡	奈良時代に全国で造られた国分寺のひとつです。奈良時代の僧寺跡には現在も国分寺が法灯を継承しています。尼寺跡は現在、国分尼寺公園として整備されています。発掘調査の出土遺物は、市川市堀之内の市川考古博物館で見学できます。	市川市
21	手児奈霊神堂・真間の継ぎ橋	手児奈という美しい少女をめぐり、言い寄る男たちが争うことを憂いた手児奈は真間の入り江に身を投げたと言われています。その手児奈を祀っているのが、手児奈霊神堂です。主に女性の守護神として子宝成就、安産成就、子どもの発育成就の御利益等で地域に広く知られています。また付近には、奈良・平安から鎌倉時代前期にかけて歌枕として多くの歌人に詠まれた継ぎ橋もあります。	市川市
22	日蓮伝説が遺されている中山法華経寺と中山・若宮界隈	市川市中山の法華経寺は鎌倉時代に開かれ、日蓮自筆の『立正安国論』、祖師堂、五重塔、法華堂など多数の文化財が残されています。また下総中山駅から山門へと続く参道には多くの店が営まれ、賑やかで風情ある門前町の景観が多くの人に愛されてきました。	市川市
23	東山魁夷記念館	市川市東山魁夷記念館は、日本画家・東山魁夷が生涯の大半を過ごした市川市に、2005年に開館しました。東山魁夷は1945年から1999年に逝去するまでの、およそ半世紀にわたり市川市に住み、「私の戦後の代表作は、すべて市川の水で描かれています。」との言葉を残しています。当館は、「人間・東山魁夷」をコンセプトに、資料展示と作品展示を通してその偉大な業績を顕彰し、情報を発信しています。	市川市
24	玉川旅館	太宰治が逗留して小説を執筆したと言われる旅館です。建物は国の登録有形文化財となっています。太宰治は療養のため1年間船橋に住んでおり、「十五年間」の中で「私には千葉船橋町の家が最も愛着が深かった」と述べています。	船橋市
25	アンデルセン公園	アンデルセン公園は、フィールドアスレチックや19世紀のデンマークの田園風景を再現した丘など、5つのゾーンからなる総合公園です。「アンデルセン」の名称は、船橋市と姉妹都市として結ばれたデンマーク・オーデンセ市生まれの童話作家に由来しています。	船橋市
26	中山競馬場	JRA(日本中央競馬会)が管理している船橋市の競馬場。昭和2年(1927年)に現在の場所に移転されて以降、有馬記念など多くのレースを開催しています。年末にはクリスマスのイルミネーションが施され、その際設置されるクリスマスツリーは生きた樹木としては国内最大級です。	船橋市
27	ふなばし三番瀬海浜公園・ふなばし三番瀬環境学習館	公園は「関東の富士見百景」に選ばれていて、冬場の天気の良い日には展望デッキなどから富士山を見ることが出来ます。また園内の「ふなばし三番瀬環境学習館」では、隣接する自然豊かな三番瀬の生き物や環境について体験しながら楽しく学ぶことができます。	船橋市
28	船橋大神宮と神楽	平安時代の『日本三代実録』や『延喜式』の神名帳にも記載されている由緒ある神社で、正式名称は意富比神社。境内にある灯明台は現存するものの中では最大規模であり、県の有形民俗文化財に指定されています。神楽は現在9座が伝えられ、年6回奉納されます。	船橋市
29	旧大沢家住宅	寛文4年(1664年)、上総国長柄郡宮成村(現在の長生群長生村)に建てられた名主の家。昭和48年まで使用されていました。東日本最古級の古民家です。江戸時代中期までの典型的な房総民家の形式を今に伝えていいます。千葉県指定有形文化財。	習志野市
30	旧鴫田家住宅	享保12年(1727年)から翌13年にかけて、実籾村の名主の家として建てられ、平成3年(1991年)まで使用されていました。南関東では比較的珍しい「曲屋」で、名主の家にふさわしい特徴を備えています。千葉県指定有形文化財。	習志野市
31	谷津干潟	谷津干潟は東京湾の最奥部に残された約40haの干潟です。シベリアやオーストラリアなど南北の国を行き来する渡り鳥の飛来地となっており、平成5年にラムサール条約登録湿地となった場所で、四季を通じて様々な野鳥と出会えます。周辺は谷津干潟公園として整備されており、野鳥観察や環境学習が行える谷津干潟自然観察センターがあります。	習志野市
32	勝田の獅子舞	八千代市勝田の円福寺と駒形神社で、毎年9月の第1日曜日に行われ、オヤジ・セナ・カカの三匹の獅子が、腰につけた太鼓を鳴らしながら笛や念仏と呼ばれる謡にあわせて舞う三匹獅子舞です。獅子舞の後には、参加者等による手踊りとミノコ踊りも行われます。	八千代市

番号	ちば文化資産 候補の名称	候補の概要	所在市町村
33	佐山の獅子舞	八千代市佐山の熱田神社と妙福寺で、毎年彼岸の中日に行われます。オヤジシ・ナカジシ・メジシの三匹の獅子が、笛や謡にあわせて腰につけた太鼓を鳴らしながら舞う三匹獅子舞です。オオガカリとカコイの二種類の舞があり、交互に舞われます。	八千代市
34	京成バラ園 ローズガーデン	3万㎡の広さを誇るローズガーデンでは1,600品種1万株のバラを中心に年間を通じ、四季折々の草花や樹木を楽しめます。平成27年には世界バラ会議において、庭園の美しさ、原種などの希少品種の展示や植栽の工夫などが評価され、優秀庭園賞を受賞しました。	八千代市
35	浦安の文化財住宅	東京湾奥に位置する漁師町浦安に建てられていた文化財住宅です。旧市街地に保存されている住宅（旧大塚家・旧宇田川家）や、博物館内で移築された漁家や商家や長屋を見学し、当時や現在の暮らしぶりなどを比較することができます。（入館料無料）	浦安市
36	戸定邸と庭園	松戸市の戸定邸と庭園は、水戸藩最後の藩主徳川昭武が造った別邸です。松戸は水戸街道の宿場町で、もともと水戸藩と深いつながりがありました。建物は国重要文化財、庭園は国名勝に指定され、戸定歴史館と共に歴史公園として整備公開されています。	松戸市
37	矢切の渡し・野菊の墓文学碑	江戸時代の初期に、江戸川の両側に田を持つ農民が、関所を通らずに江戸と往来したことから、「矢切の渡し」が始まりました。江戸川に残る唯一の渡しであり、伊藤左千夫の小説「野菊の墓」の舞台にもなっています。	松戸市
38	松戸の万作踊り	収穫の豊穰を祝う「万作踊り」は、県指定の無形民俗文化財で、鎌倉時代の時宗一遍祖師の念仏踊りを原型とし、文化的に意義が深く、諸芸のルーツとなっております。現在「万作踊り」には9種類の演目があり、地域のお祭り等で披露されています。	松戸市
39	上花輪歴史館と野田の町並み	野田の醤油醸造は江戸時代に江戸川岸や街道筋に醤油醸造家が集まり、有数の醤油生産地となりました。現在も醤油醸造関連の歴史的建物と近代的醸造工場が共存する独特な景観が見られます。上花輪歴史館は、江戸時代から醤油醸造を営んだ上花輪村名主の邸宅と庭園です。	野田市
40	旧花野井家住宅	流山市にあった花野井四郎氏の住宅を、昭和46年に野田市が寄贈を受け清水公園の近くに移築したもので、17世紀後半のものと推定されます。花野井家は、江戸時代幕府直轄の牧を管理する牧士を代々務めていました。昭和44年に国の重要文化財に指定されました。	野田市
41	野田市市民会館	醤油醸造家の茂木佐平治邸として大正13年頃に完成しました。昭和31年、当時の野田醤油(株)を経て市に寄付され、翌年市民会館として開館し、利用されています。平成9年に主屋と茶室が国の登録有形文化財に、平成20年に庭園が登録記念物になりました。	野田市
42	山崎貝塚	縄文時代中期後半から晩期中ごろ（およそ4000年前から3000年前）にかけての土器片や石器、住居跡などが発見されました。貝塚の形態は南関東地方に良く見られる馬蹄形貝塚の典型例です。昭和51年に国の史跡として指定されました。	野田市
43	利根運河	オランダ人技師ムルデルの計画により、江戸川～利根川を結ぶバイパスの水運ルートとして明治23年（1890年）に建設されました。地形に沿って建設された当初の形態・線形が残っている歴史的に貴重かつ、日本初の西洋式運河で「選奨土木遺産」や「近代化産業」の認定施設です。	柏市 流山市 野田市
44	手賀沼花火大会	柏・我孫子の夏の夜空の風物詩となっている手賀沼花火大会。打上数は13,500発と県内屈指です。幻想的な水中花火や大迫力のウルトラジャンボスターメイン、子どもたちに人気のキャラクターメインは必見です。	柏市 我孫子市
45	流鉄の景観	流鉄はみりん産業で栄えた流山の町とJR常磐線の馬橋駅を繋ぐ5.7kmの鉄道です。大正元年に流山の商人らが中心となって発起し、住民等が出資して出来た鉄道です。単線を2両編成の電車が走行する沿線は、昔は雑木林や農地が広がっていましたが、現在は宅地化が進みました。	流山市 松戸市
46	流山本町の街並み	流山本町は、江戸時代から江戸川の水運を活かした商都として、200年前からは、白みりんの発祥の町として栄華を極めました。神社仏閣が多く点在し、昔からある祭事は今でも受け継がれ、また90基近くの住民手作りの切り絵行灯の灯りが優しく燈っています。	流山市
47	白樺派と文人の郷	大正から昭和にかけて、手賀沼沿いには白樺派を中心とした文人の別荘や邸宅が建ち並びました。杉村楚人冠記念館などの文化財建造物と、志賀直哉などの文人を紹介する白樺文学館を「我孫子の大正・昭和文化遗产」として連携させ、我孫子の魅力を多くの人々に伝えています。	我孫子市
48	布佐地区の江戸文化遗产	我孫子市布佐地区は江戸時代に利根川の河岸として栄えました。毎年9月に開催される竹内神社の祭礼は五台の山車と神輿が町内を練り歩き、江戸の繁栄を偲ばせます。また手賀沼沿いにある旧井上家住宅は江戸時代中期から始まる手賀沼干拓を担った邸宅と資料を良く残しています。	我孫子市
49	下総小金中野牧跡と春の牧ウマまつり	下総小金中野牧跡は、江戸幕府が軍馬育成のための放牧場として現在の千葉県北西部に設置した小金牧のうちの1つの牧場です。鎌ヶ谷市にもその施設である「捕込（とっこめ）」や「野馬土手」の一部が残っています。現在、国史跡下総小金中野牧跡を周知するイベントとして、国史跡跡等を会場とした「とっこめ桜まつり」や「とっこめ寄席」など『とっこめ』をキーワードにしたイベントを「春の牧ウマまつり」として、毎年4月、5月に開催しています。	鎌ヶ谷市



番号	ちば文化資産 候補の名称	候補の概要	所在市町村
50	鎌ヶ谷大仏と周辺商店街の景観	鎌ヶ谷大仏は、鎌ヶ谷宿の豪商大国屋右衛門が先祖供養のために建立した 鑄造青銅製の釈迦如来の大仏で、高さ1.80m、台座含めて2.30mです。全国的 にも駅名となっている唯一の大仏で、付近の商店街には大仏の名前を冠した 店名や商品を取り扱っている店があります。	鎌ヶ谷市
51	伊能歌舞伎	伊能歌舞伎は大須賀38か村の総鎮守、大須賀大神の春の例大祭に奉納芝居と して行われ、元禄年間に始められたと伝えられる約300年の歴史を持つ伝統芸 能です。	成田市
52	旧学習院初等科正堂	明治32年(1899)に東京市四谷区尾張町に学習院初等科正堂として建設され、 昭和11年(1936)に正堂の改築に伴い遠山村立尋常高等小学校(現遠山中学校) の講堂として移築され長く使用されてきました。明治時代後期の洋風学校建 築の技術を今に伝える貴重な建物です。	成田市
53	公津原古墳群	印旛沼の東側に位置する成田ニュータウン内に残された古墳群の総称で、龍 角寺古墳群とともに千葉県を代表する古墳群です。古墳群は4世紀の前半から 7世紀の後半まで造営されており、平成2年には古墳群のうちの40基が県の史 跡に指定されています。	成田市
54	成宗電車第一トンネル・第二 トンネル	京成成田駅前から成田山門前に通じる1kmの道路には、明治43年(1910)に 開通した千葉県最初の電車である成宗電車が走っていました。この通りには2 つの煉瓦づくりのトンネルが残されており、公益社団法人土木学会の土木遺 産に選ばれています。	成田市
55	宗吾霊堂	宗吾霊堂は、宗吾様の名で親しまれる古刹で、9月第一土・日の御待夜祭や紫 陽花名所として知られています。開基は古く、桓武天皇の時代に征夷大将 軍・坂上田村麻呂が、房総を平定した時に戦没者供養のために建立したと言 われています。	成田市
56	成田山新勝寺・門前町と祇園 祭	成田山新勝寺は「成田のお不動さま」の名で親しまれる真言宗智山派の大本 山です。近世の貴重な寺院建築として、新勝寺内の5棟が国の重要文化財に指 定されました。また、新勝寺門前の表参道は、歴史的建造物が残る江戸情緒 あふれる町並みで、夏には約300年の歴史がある成田祇園祭が開催されます。	成田市
57	マロニエ並木	マロニエ並木は三里塚記念公園内にある、三里塚御料牧場記念館の正面に広 がる並木道です。公園は旧宮内庁下総御料牧場の跡地で、「日本の歴史公園 100選」にも選ばれています。牧場時代からある雄大な並木道は当時の面影を 今に伝える貴重な景観です。	成田市
58	DIC川村記念美術館	近現代美術のコレクションとしては日本でも有数の規模をもつ、佐倉市にあ る私立美術館です。館内には、巨大な現代美術の作品群がゆったり鑑賞でき るよう、広大な展示室が設けられています。	佐倉市
59	旧佐倉順天堂	天保14年(1843年)に著名な蘭医学者だった佐藤泰然は江戸から佐倉に移住 し、医塾兼診療所の「順天堂」を開設しました。ここでは全国から門人を集 め、多くの優れた人材を輩出し、日本近代医学の発祥の地となりました。	佐倉市
60	千葉県立佐倉高等学校記念館	千葉県立佐倉高等学校記念館は、佐倉藩最後の藩主である堀田正倫の援助に より、明治43年(1910年)に建設されました。県内の高等学校で唯一、現在 も使用されている明治期の木造校舎(現管理棟)であり、明治後期の洋風学 校建築の特徴を留めています。	佐倉市
61	佐倉城跡・城下町と”江戸” 時代まつり	慶長16年(1611)に佐倉城築城と城下町整備が始まりました。城には江戸幕府 中枢を担う譜代大名が城に入り、近世後半は堀田家が代々城主となりました。 城下町は、城の東に連なる台地を造成し、武家屋敷、寺、町屋が配置形 成されました。最後の佐倉藩主である堀田正倫の和風邸宅と洋風庭園も残さ れています。また城下町を舞台として、100人以上からなる時代衣装行列や江 戸の時代の体験ができる佐倉“江戸”時代まつりが開催されます。	佐倉市
62	佐倉チューリップフェスタ	印旛沼湖畔にある佐倉ふるさと広場では、4月にチューリップフェスタを開 催しています。オランダ風車と印旛沼を背景に、関東最大級・60万本以上の 色とりどりのチューリップが一面に咲き揃います。期間中はオランダに関連 した楽しいイベントもあります。	佐倉市
63	佐倉の秋祭り	佐倉の秋祭りは江戸時代より受け継がれる「麻賀多神社祭禮」を母体とし、 五穀豊穰に感謝する祭りです。新町通りを中心に山車、御神酒所(屋台)の 曳き廻しや御輿の渡御で賑わいます。また、千葉県最大級の麻賀多神社の大 神輿の渡御は見ごたえ十分です。	佐倉市
64	城下町佐倉の武家屋敷	佐倉藩主堀田家に任えた武士が住んでいた江戸時代後期の武家屋敷である、 旧河原家住宅(県指定文化財)、旧但馬家住宅(市指定文化財)、旧武居家 住宅(国登録有形文化財)が保存、公開されておます。	佐倉市
65	武術 立身流	佐倉藩の剣術を現在に伝える古武術。その起源は戦国時代にさかのぼり、多 くの佐倉藩士たちが学んだ。居合、剣術を中心とした実戦的な総合武術で す。現在も宗家を中心に門人たちが稽古に励んでいます。	佐倉市
66	亀崎ばやし	市指定文化財の亀崎ばやしは、亀崎熊野神社の例祭で奉納される伝統神事 です。ひょっとこ、おかめ、白狐などの面をかぶり、御囃子に合わせ道化など を演じます。近代には全国で流行った農村演劇(河童釣り・狐取り)を現在も 継承しています。	四街道市
67	栗山ばやし	市指定文化財の栗山ばやしは、江戸時代の宝永3年5月創建と伝わる栗山香取 神社の祭礼で奉納される伝統神事です。御囃子は太鼓・笛などで構成され、 道化は面をかぶり、鈴で舞います。	四街道市

番号	ちば文化資産 候補の名称	候補の概要	所在市町村
68	内黒田はだか参り	内黒田熊野神社で行われる市指定文化財の内黒田はだか参りは、五穀豊穡と無病息災を祈願する伝統神事です。男性の裸坊が、焚き火の側で水をかけ合い身を清め、鳥居と拝殿の間を往復、拝殿に藁を投げ込み豊凶を占い、妙見締めで終了します。	四街道市
69	下総台地の牧遺構群（柳沢牧・小間子牧）	江戸幕府が千葉県下（下総）に設置した馬の放牧場の内、柳沢牧と小間子牧、2つの牧場の痕跡が無数に残されています。中でも、馬を捕えた小間子牧の捕込跡や柳沢牧の勢子土手は非常に残りも良く、市の指定文化財として保護されています。	八街市
70	ぼっち（落花生の野積み）の風景	地干しが終わった落花生を円筒状に積み上げ、藁の笠を被せたものを「ぼっち」といい、1ヶ月程この状態で乾燥させると豆の苦味が抜け、甘みと油がのり、ほどよい美味しさになります。この「ぼっち」は、八街市ではおなじみの風景で、昔ながらの晩秋の風物詩となっています。	八街市
71	浦部の神楽	浦部の神楽は江戸時代初期に八千代市村上より伝わったといわれています。神話を題材とした12の演目が伝承されており、十二座神楽とも呼ばれています。毎年7月最終日曜日の阿夫利神社の例大祭と、10月第3日曜日の鳥見神社の例大祭で演じられます。	印西市
72	木下貝層	木下貝層は、千葉県北部から茨城県南部にかけて分布する、貝化石を多量に含む地層です。印西市木下で最初に調査されたことが名前の由来です。木下万葉公園内の露頭では、当時生息していた100種類以上の貝化石が密集する木下層の模式的な構造が観察できます。	印西市
73	栄福寺薬師堂	栄福寺薬師堂は正面側面ともに三間の堂で、屋根は茅葺寄棟造です。外陣は鏡天井に極彩色で天女が描かれ、内陣は極彩色で彩った須弥壇を設けています。棟札に文明四年（室町時代）完成と墨書銘が残り、建立時代の明確な県下最古の木造建造物です。	印西市
74	七仏薬師（木造薬師如来坐像及び立像）	松虫寺の薬師如来像は、坐像の中尊の脇に立像が3躯ずつ並んでいます。これは、平安時代に広まった七仏薬師と呼ばれるものです。通常は光背に七仏が取り付けられたり、描かれることが多く、本像のような坐像と立像の構成は他に例のない珍しいものです。	印西市
75	泉福寺薬師堂	泉福寺薬師堂は正面側面ともに三間の堂で、屋根は茅葺寄棟造です。内部は後部二間が内陣、前部一間が外陣という構造になっていますが、現在の構造や痕跡からかつて中敷居を入れた建具があったと推定されます。建立年代は、室町時代と考えられています。	印西市
76	鳥見神社の神楽	鳥見神社の神楽は室町時代から始まったといわれています。毎年10月17日の鳥見神社の例大祭にて演じられ、別名大和神楽と呼ばれています。神楽は十六座で構成され、神代の物語と農耕生活を取り入れた所作で舞われています。現在は六～七座が上演されます。	印西市
77	鳥見神社の獅子舞	悪疫払いと豊作を祈念して、ジジ（老獅子）、セナ（若獅子）、カカ（雌獅子）の3匹によって舞われる獅子舞です。現在は5月3日に奉納されており、この日は「オコト」と呼ばれています。	印西市
78	宝珠院観音堂	宝珠院観音堂は、「光堂」とも呼ばれ、正面側面ともに三間の茅葺寄棟造です。外観は簡素な造りですが、内陣は組物などが極彩色で塗られ、須弥壇や来迎柱は漆塗、厨子も色彩装飾が施されています。建立年代は、厨子内の墨書銘から室町時代と推定されています。	印西市
79	銅造不動明王立像	結縁寺の本堂に安置されている不動明王立像は、像高47cmの小像ながら、両目を強く見開き、力強く立つ姿からは不動明王特有の怒りが感じられます。国の重要文化財に指定されている不動明王の中でも、銅造はこの像を含め3像しかない貴重なものです。	印西市
80	清戸の泉	船橋カントリー倶楽部の中にあるこの泉には、平安時代初期に竜神に雨乞いした際に、大雨と共に小さな青龍が落ちて来たという伝説があります。北総地域にはいくつかの龍神信仰に基づく伝説や遺跡が伝えられていますが、清戸の泉はその代表例とされています。	白井市
81	旧岩崎家末廣別邸	富里市にある旧末廣農場内に建てられた岩崎家の邸宅。近代和風建築として国の登録有形文化財に登録されています。現在は公園化に向けての計画を策定中のため、一般には非公開となっています。	富里市
82	本佐倉城跡	本佐倉城は戦国時代の城郭であり、文明年間（1469～1487年）に千葉輔胤によって築城され、その後約100年間下総国を治める千葉氏の本拠となりました。千葉県初の城郭での国史跡であり、歴史と文化と広大な緑地を包括する千葉県を代表する城跡です。	酒々井町 佐倉市
83	龍角寺古墳群と風土記の丘	印旛沼北岸に位置する龍角寺古墳群は、100基を超える古墳が自然環境と共に良好に保存整備されています。房総のむら風土記の丘資料館で出土品も見学でき、通称「白鳳のみち」を散策すると千葉県最古の龍角寺にたどり着きます。	栄町 成田市
84	千葉県立房総のむら	千葉県立房総のむらは、房総の伝統的な生活様式や技術を来館者が直接体験するとともに、県内各地から出土した考古資料や武家・商家・農家などの展示を通して歴史が学べる体験型博物館です。	栄町
85	阿玉台貝塚	阿玉台貝塚は、明治27年（1894）から東京帝国大学の八木契三郎らによって発掘調査が行われてきた貝塚です。この貝塚から発見された土器は、約4000年前の縄文時代中期前半を代表するもので、「阿玉台土器」と命名され、関東地方の土器編年の標式資料です。	香取市

番号	ちば文化資産 候補の名称	候補の概要	所在市町村
86	伊能忠敬旧宅	日本で初めて正確な測量地図を作製した伊能忠敬にゆかりのある旧宅です。伊能家は代々佐原の名主を務め、酒造業や米穀売買を家業としていました。通りに面した店舗と奥の主屋、土蔵で構成されています。現在は無料で公開されています。	香取市
87	加藤洲十二橋	水郷随一の名勝として知られる加藤洲十二橋は、利根川と常陸利根川に挟まれた広大な水田地帯の一角にあります。かつて住民は、縦横に張り巡らされた水路をつたって舟で行き来していましたが、加藤洲の水路には家と家を結ぶ簡単な橋が12本架かっていたため十二橋と呼ばれています。	香取市
88	香取市佐原伝統的建造物群保存地区	香取市の中心部、佐原地区の小野川と香取街道が交差する地域にある、伝統的建造物が立ち並ぶ景観を今に伝える地区です。江戸時代中期から利根川下流域の舟運の物資集散地として繁栄しました。地区には江戸時代の商家や明治時代の洋風レンガ建築が残されています。また小野川には物資を陸に揚げるための「だし」と呼ばれる施設が残り、当時の面影を伝えていきます。	香取市
89	香取神宮と式年神幸祭	祭神は日本書紀に記載のある経津主大神（フツヌシノオオカミ）（別名伊波比主命（イワイヌシノミコト））で、古代から東国の武神として信仰を集めた古社です。境内には多くの文化財や伝承などがあり、長い歴史を伝えています。毎年4月には約800年前より伝わる香取神宮神幸祭が行われ、また、12年に一度、午年に行われる「式年神幸祭」には、3000人もの氏子が甲冑など歴史的装束で大行列を組み、香取神宮や佐原の町内を2日間巡行します。次回は2026年4月に開催されます。	香取市
90	佐原の山車行事	舟運の要衝佐原は、小野川東岸を本宿、西岸を新宿といいます。佐原の山車行事は各鎮守社祭礼の「つけ祭り」が競い合って発展した行事です。本宿は7月に10町内、新宿は10月に14町内で、大人形を載せた山車を、佐原囃子の調べののって勇壮に巡行します。2016年には、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。	香取市
91	側高神社	側高神社は、香取神宮第一の摂社で、記録によると香取神宮の式年遷宮と同時に造り替えや修理等を行う慣例があったと考えられます。本殿は寛文5年（1665）の建立で、構造形式は一間社流造、屋根は銅板葺。毎年1月に奇祭・「ひげなで祭り」が行われます。	香取市
92	山倉の鮭祭り	香取市山倉に鎮座する山倉大神では、毎年12月第一日曜日に初卯祭・通称「鮭祭り」が行われます。古来より、近隣の栗山川を遡上してきた鮭を「童宮進献の御鮭」として奉納する祭事です。前日の神事で用意された切り身の護符が参拝者に頒布されます。	香取市
93	良文貝塚	良文貝塚は、明治時代から発掘調査が行われた貝塚です。地域に密着した保存活動により、昭和5年（1930年）に千葉県のみ貝塚として初めての国指定史跡となりました。貝層が形成された時期は、縄文時代中期から晩期初頭で、主に海に棲む貝で構成されています。	香取市
94	並木神宮寺観音堂と十一面観音立像	神崎神社の別当だった並木神宮寺の一角には並木の観音様として親しまれている堂があります。現在の場所に建立されたのは元禄10年（1697年）と伝えられています。棟に千木を詠え、神崎氏の家紋月星もあり、堂内には県指定有形文化財である十一面観音立像などがあります。	神崎町
95	西の城貝塚	利根川を臨む独立台地上に建つ「わくわく西の城」の敷地内にある、日本で最も古い貝塚です。ヤマトシジミを主体とし、淡水産のタニシ、カワナハ水産のハマグリ、オキシジミからなる主淡水貝塚で、千葉県指定史跡となっています。	神崎町
96	神崎神社となんじゃもんじゃ	神崎神社は古来香取の海を航行する船舶の目印として崇敬されていました。その神崎神社の拝殿右側には、国指定天然記念物「なんじゃもんじゃ（大樟）」があります。また、県指定有形文化財である鎌倉時代初期から室町時代初期にかけての神崎荘及び神崎神社関係の古文書12通と室町時代の書写と思われる神崎宮絵図1点を1巻が残されています。	神崎町
97	あじさい遊歩道	昭和55年（1980年）に、多古町が栗山川の土手に1万株のあじさいを植えて完成させた遊歩道です。あじさいは毎年花をふやし続け、初夏に色とりどりのあじさいが美しい花の道を作るほか、春には菜の花、秋にはコスモスが川辺を飾り、訪れる人々の目を楽しませてくれます。	多古町
98	栢熊遺跡	栢熊遺跡は栗山川を望む台地上にあります。周辺地域のなかでは、弥生時代以降最も古い中期後半の環濠集落が発見されています。また、2基の前方後円墳と11基の円墳からなる古墳群も広がっています。中でも、しゃくし塚古墳は前期古墳の特徴をよく残し、千葉県指定史跡に指定されています。	多古町
99	多古のしいかご舞	八坂神社の祭礼「多古祇園祭」の行われる7月25日・26日の夜に神社の境内で演じられます。豊作、無病息災、子孫繁栄などを願う農民たちの素朴な舞で、氏子若衆が猿、獅子、鹿、雨蛙に扮して踊ります。中でも10mの高さのつぐめ柱で披露される猿の曲芸に、見る人は圧倒されます。	多古町
100	東大社 やぶさめと式年神幸祭	毎年10月の第三土曜日の秋祭の翌日に行われるやぶさめ神事は、堀川天皇の御代に始まったとされ、この矢を捨ると幸福が訪れるとされています。また、2年に1度神輿が銚子市桜井町の利根川へお浜降りをする櫻井御神幸が行われます。20年に一度の式年大神幸祭は東総地方最大のお祭りで、次回開催は2040年4月です。	東庄町
101	犬吠埼灯台	房総半島東北端の犬吠埼にある総高31.3mの灯台です。明治政府がイギリスから招聘した技師、ヘンリー・ブラントンの設計・施工監督のもと明治7年（1874年）に点灯しました。ほぼ円筒形をしたレンガ造の灯台で、高さ約2.6mの日本で一番大きな4面フレネルレンズを使用しています。	銚子市



番号	ちば文化資産 候補の名称	候補の概要	所在市町村
102	外川の街並み	古き良き漁師町の風情を感じることができる場所です。江戸時代からの町らしく石が多く使われ、碁盤状の坂道には古い建物が立ち並んでおり、今でもかつての面影を残しています。さらに、坂道を下れば万治元年（1658年）築港の外川漁港へと続きます。	銚子市
103	銚子大漁節	銚子市の大漁節の歴史は古く、元治元年（1864年）の春、銚子港は未曾有の豊漁になり、この豊漁を祝うため川口明神で大漁祭を催すこととなりました。その際に、俳諧師石毛利兵衛ら5人によってつくられ、祭礼で踊られたのが起こりといわれています。	銚子市
104	銚子電鉄とその沿線の風景	銚子電鉄は大正12年（1923年）に営業を開始しました。特徴がある駅舎は創業当時の姿が残る外川駅舎や、ポルトガル風に改装され売店などの施設が併設された犬吠埼駅等があります。沿線には江戸時代からの漁師町としての面影を残す街並みや、田園風景が広がっています。	銚子市
105	銚子はね太鼓	はね太鼓は、江戸時代から銚子に伝わる祭り太鼓です。二人の打ち手が太鼓を担ぎ上げ、首とあばらで太鼓を支え、打っては跳ね回り、太鼓もるとも宙を舞います。極め付けの寝かせ打ちは、相手を倒し、地に這わせ太鼓打ちまくる海の男の力と技の太鼓です。	銚子市
106	猿田神社	社伝によると平安時代初期の大同2年（807）に社殿が建立され、猿田彦大神、天鈿女命、菊理媛命を祀っています。豪壮で華麗な桃山時代の特色がよく合わされている社殿や、社殿を取り囲んでいるスタジイが優先する極相林、宝永5年に奉納された「燈籠金石管」や、太閤検地における貴重な資料「大正検地帳」など貴重な文化財の宝庫です。	銚子市
107	屏風ヶ浦とジオパーク	銚子ジオパークは犬吠埼や屏風ヶ浦といった自然と、その自然に深く関連して形成された縄文時代の遺跡や銚子漁港等をまわり、銚子半島の成り立ちや文化が学べます。屏風ヶ浦は約10kmの断崖で、標高約40～60mの台地を太平洋の荒波が浸食してきたものです。「銚子の磯巡り」は歌川広重の浮世絵にも取り上げられ、江戸時代以来の観光名所です。	銚子市
108	銚子のぬれせんべい	焼きたてのせんべいを醤油だれに漬け込ませた、しっとりとした食感のせんべいです。銚子は江戸時代から醤油の生産地として知られ、地域の産業と結びついた郷土の食べ物です。	銚子市
109	銚子の醤油醸造	銚子の食文化に欠かせないものといえば醤油です。その歴史は古く元和2年（1616年）まで遡り、関東最古ともいわれています。今でも醤油の醸造所がいくつもあり、市内の子供たちが授業の一環で工場見学を行うなど地域に深く親しまれています。	銚子市
110	旭市の神楽	神楽とは神に捧げる歌や踊りで、豊作・豊漁を願い病気を追い払う儀式として古くから行われています。旭市では弥生の月に三つの神楽があり、第1日曜日に水神社永代大御神楽、春分の日に熊野神社の神楽、27・28日には鎌数の神楽が奉納されます。	旭市
111	飯岡灯台からの夜景（刑部岬）	屏風ヶ浦の絶壁に建つ展望台は標高が約60mあり、展望台からは太平洋と九十九里浜を一望できます。夜に訪れると飯岡漁港が美しく輝き、天気が良ければいすみ市方面まで見渡せます。	旭市
112	大原幽学遺跡	大原幽学は幕末に活躍した農村指導者です。独自の教えを提唱し、世界初の協同組合である「先祖株組合」を創設、さまざまな農業指導を実践し、農村の復興に尽力しました。活動の拠点となった幽学の住居や耕地整理を実施した水田などが今も残されています。	旭市
113	津波避難タワー	平成23年3月11日に発生した東日本大震災による津波は九十九里沿岸にも到達し、旭市では死者14名、行方不明者2名と甚大な被害を受けました。この津波を教訓とし、市民の安全を守るための津波対策のひとつとして、津波避難タワーを整備しました。	旭市
114	飯高寺	飯高寺（飯高檀林跡）は、江戸時代の日蓮宗の学問所（檀林）です。天正8年（1580年）から明治7年（1876年）に廢檀となるまで、多くの名僧を輩出しました。参道には杉の巨木が並び、当時の建物は学僧達の姿を感じさせてくれます。	匝瑳市
115	八日市場の盆踊り	八日市場盆踊りは、中央に置いた縁台に囃子方が座り、その周囲で円陣を組んで踊る盆踊りです。曲は「庄八」「権佐が西国」「東上総」の3曲が伝えられていますが、踊りは1種類だけで、囃子の演奏は連続して途切れなく行われます。	匝瑳市
116	須賀正教会と聖画	匝瑳市須賀地区、田園に囲まれた地域の一角に須賀正教会があります。教会には日本最初のイコン制作者「山下りん」が描いた10面の聖画が所蔵されています。明治32年にニコライ大主教から降福された油絵で一定の法則を持ちますが、作者の個性が表れています。	匝瑳市
117	東金駅西口の歴史的建造物群	東金駅西口に残る国登録文化財「多田屋本社社屋・店舗」を拠点として、周辺にある古く文化的価値の高い建造物群も含めて活用するため、その見学会や説明会等を実施します。また地元のイベントや商店街と連携し、楽しく原風景の町並みを堪能します。	東金市
118	八鶴湖	八鶴湖は、徳川家康が鷹狩りを楽しむ際の宿泊所として造った東金御殿の庭池として整備されました。周囲には約300本の桜が植えられ、桜の名所として知られているほか、湖畔には国有有形文化財に指定された建物や古刹などがあり、市随一の名所です。	東金市
119	歌人伊藤左千夫の生家	伊藤左千夫は元治元年（1864）にこの地に生まれ、上京し正岡子規の門に入り短歌を始めました。子規没後はアララギ派の総帥として活躍し、土屋文明、齋藤茂吉など有名な歌人を世に送り出しました。生家は近代文学史の先駆者として大きな足跡を残した文学者の家です。	山武市

番号	ちば文化資産 候補の名称	候補の概要	所在市町村
120	山武市サマーカーニバル	山武市サマーカーニバルは、市民のふるさと意識の高揚や心のふれあいの場として開催し、もって観光客の誘致と地域産業振興を図ることを目的としています。旧蓮沼村の時から数え今年で28回目開催し、毎年約1万5千人以上の人が来場します。	山武市
121	県政発祥の地「宮谷県庁跡」	明治元年（1868）7月、天領を管理するために、久留米藩士の柴山典が、新政府から上総房州監察兼知県事に任命されました。その管轄地は、上総・安房と常陸の一部を含み、宮谷県と命名され、本國寺の建物が、その庁舎として使用され、現在まで残されています。	大網白里市
122	永田旭連の獅子舞	伊勢の太神楽の系統で、慶長年間に隣村の萱場大谷村（茂原市）から伝わったといわれています。元禄13年（1700年）、永田村の鎮守矢口神社が、小中村本社から分宮して富谷に建立されたとき、その鎮座祭に奉納しています。現在、地域の行事には欠かせない郷土芸能として親しまれています。	大網白里市
123	観音教寺と芝山古墳群	観音教寺は奈良時代に開創したと伝わる古刹です。仁王門の仁王尊は、火事・泥棒除け、子育てに霊験あらたかで、成田不動尊と共に、江戸庶民の信仰を集めました。境内には芝山はにわ博物館があり、国指定史跡殿塚・姫塚出土のはにわ等を展示しています。	芝山町
124	芝山はにわ祭	「はにわの町」として知られる芝山町で毎年、11月の第2日曜日に開催される祭りです。はにわ祭では、古代人に扮した町内の小中学生等57人が「殿塚・姫塚」に出現した後、町内の芝山仁王尊、芝山公園等で儀式やパレードを行い、最後に古代人が現代人へのメッセージを残して昇天します。	芝山町
125	白榭粉屋おどり	芝山町白榭地区にあった粉屋の美しくも薄命だった娘を慕う唄と踊りで、「おいとこ節」とも呼ばれます。岩手県や宮城県で盛んな「おいとこ節」の原型といわれ、県内のお洒落や万作おどりにも「白榭粉屋」が演目にあります。	芝山町
126	鬼来迎	鬼来迎は毎年8月16日に、横芝光町虫生の広済寺で行われる仏教劇です。地獄の責め苦と救済を描いたお話と広済寺縁起譚が演じられます。鬼婆に赤ちゃんを抱いてもらおうと健康に育つという言い伝えがあります。また寺には室町時代に遡る面も残されています。	横芝光町
127	藻原寺	茂原市にある日蓮宗の本山（由緒寺院）で、塔頭が二院あります（妙弘寺、東光院）。日向が住持となったことから、日向門流の本寺として発展しました。山門は、昭和8年（1932年）建造のコンクリート製多宝塔形式で、茂原市のランドマークとして親しまれています。	茂原市
128	茂原七夕まつり	毎年開催される、茂原市の夏の一大イベントです。会場を埋め尽くす色とりどりの華やかな七夕飾り、もばら阿波おどりやYOSAKOI鳴子踊り、市内小学校の鼓笛隊パレードや天の川キャンドルナイトなど、3日間に渡り様々なイベントが催されます。	茂原市
129	芥川荘	一宮は明治末期から昭和初期にかけて「東の大磯」と呼ばれるほどの別荘地でした。文人・芥川龍之介も2度一宮を訪れており、彼が滞在した建物が「芥川荘」として現在も保存されています。のちに妻となる女性に恋文を出した場所としても有名です。	一宮町
130	玉前神社とその門前町	玉前神社は、上総国一之宮として、平安時代より信仰を集めており、現在の町名の由来となっています。その門前町は、その信仰とともに発展し、江戸中期の建築である玉前神社社殿をはじめ、江戸から明治期に建築された建物群が当時の面影を残しています。	一宮町
131	釣ヶ崎海岸の景観	玉前神社の例祭「上総十二社祭り」（県指定無形民俗文化財）が行われる場所で、玉前神社の祭神・玉依姫命に関係のある周辺神社の神々が1年に1回集う神聖な場所です。また東京2020オリンピック競技大会のサーフィン競技会場となっています。	一宮町
132	佐貫季寄	江戸時代末から明治初期に睦沢町の佐貫地区で生まれた歌踊で、中山連という芸能集団により始められました。緩やかなテンポの曲で、年若い娘を「福娘」として見立て五穀豊穡を願う歌に拍子木によるツケと鉦が付いて、菅笠を持った女の人が踊ります。	睦沢町
133	妙楽寺と妙楽寺の森	妙楽寺は、天然記念物に県指定されている自然豊かな森の中にあります。御本尊は丈六の大日如来坐像で、脇侍は不動明王立像と毘沙門天立像で、作風はそれぞれ異にしていますが、いずれも平安時代後期の造像で、国・県文化財に指定されています。	睦沢町
134	岩沼の獅子舞	長生村に伝わる2人立ちの獅子舞で、約400年前から始まったといい、地区の氏神である皇産霊神社で奉納されています。毎年10月19日頃に神社境内の仮舞台上で演じられます。舞は「おから」「羽手」などがあり、なかでも「乱玉の舞」は大梯子の上に乗って演じるため、梯子獅子舞として知られています。	長生村
135	ウミガメの丘	千葉県立九十九里自然公園内にあるウミガメの丘は、ウミガメが産卵にやってくる刺金海岸に隣接しており、九十九里浜を一望することができます。ウミガメの丘にある三日月型のベンチに座り、水平線に祈ると願いが叶うと噂されるパワースポットです。	白子町
136	白子神社	本殿は1758年に再建され県の文化財に指定されています。白い亀と白い蛇が海岸に現れたという白亀白蛇の故事が名前の由来となっています。末社の面足神社（イケメンさま）は美男美女の神様とされており、男女良縁の継続をもたらすとして密かに人気です。	白子町
137	長柄横穴群	横穴墓は、古墳時代の終わりに、丘陵斜面に横に穴を掘り造られたお墓の名称です。全国に分布していますが、長生郡内の横穴墓は、「高壇式」と呼ばれる一段高い特殊な横穴墓が多く、特に「史跡長柄横穴群」は、代表的な遺跡として国の史跡に指定されています。	長柄町



番号	ちば文化資産 候補の名称	候補の概要	所在市町村
138	笠森寺観音堂	「四方懸造」という日本唯一の構造を持つ建造物で、国の重要文化財に指定されています。縁起では長元元年（1028）建立と伝えられますが、現存する堂は安土桃山時代の再建と考えられます。坂東三十三観音の札所でもあり、多くの来訪者で賑わっています。	長南町
139	鶴原大名行列と鮑腸餅	千葉県記録選択の無形民俗文化財である鶴原の大名行列は、八坂神社の例祭で行われます。八坂神社を出発し鶴原の街中や鶴原海岸を練り歩きます。また、大名行列の時には各家庭で鮑のキモに見立てたお供えもの「鮑腸餅」が作られます。鮑腸餅は小麦粉の菓子で片面はプレーン生地半面は蓬入りの緑色の生地です。モチモチの食感できな粉をかけて味わいます。	勝浦市
140	鶴原理想郷	鶴原理想郷は、鶴原地区の南東部に位置し、鶴原海岸を抱くように海に突き出ている典型的なリアス式海岸です。深い入江を覆うように木々や海岸性の植物が、紺碧の海に突き出た岬の先端まで茂り合っており、与謝野晶子など古くから多くの文人墨客が訪れました。	勝浦市
141	勝浦朝市	勝浦朝市は、野菜、果物、魚介類、花のほか、工芸品など様々なものが揃っている、勝浦市で開かれる朝市です。石川県の輪島朝市、岐阜県の宮川朝市、佐賀県唐津市呼子町の呼子朝市と並ぶ、日本四大朝市のひとつに数えられています。	勝浦市
142	勝浦大漁まつり	各地区の神輿が一堂に会する合同祭典や江戸後期屋台の引廻し、神輿の船渡しなど、漁師町ならではの威勢の良さと観客を魅了します。毎年9月中旬から敬老の日にかけて開催され、市内各地を練り歩きます。	勝浦市
143	勝浦タンタンメン	醤油ベースのスープに真っ赤なラー油、豚挽肉、みじん切りの玉ねぎが入るのが特徴の勝浦市のご当地ラーメンです。約50年以上前から食べられており、漁師や海女が寒い海仕事で冷えた体を温めるために開発されたと言われております。	勝浦市
144	かつうらビッグひな祭り	市内各所に約30,000体のひな人形が飾られ、街はひな祭り一色！市内浜勝浦の遠見岬（とみさき）神社の60段の石段一面におよそ1,800体の人形が飾られ、夕暮れ時からライトアップされます。期間中の土日は歩行者天国になり各種出店が行われます。	勝浦市
145	大原はだか祭り	江戸時代から続く関東随一といわれる勇壮な祭りで見所は二つ。一つは五穀豊穰、大漁祈願をした後、十数基の神輿が海中でもみ合う「汐ふみ」。もう一つは夕暮れの会場が数え切れないほどの提灯で埋まり、絢爛豪華な絵模様を見せる「大別れ式」です。	いすみ市
146	いすみ鉄道の景観	いすみ鉄道は、いすみ市・大多喜町をまたがって走る26.8kmの路線です。自然豊かな沿線には養老溪谷や、桜・菜の花との組み合わせで美しい景観を創り出しており、ローカル列車の旅を楽しむ多くの人が訪れます。	いすみ市 大多喜町
147	大多喜城と城下町	夷隅川が麓を洗う急崖の上に築かれた大多喜城跡は、現在本丸跡に天守閣を模した県立中央博物館大多喜城分館が建ち、二の丸跡に大井戸や薬医門が残されています。また城下町の大通りには大多喜藩御用達を勤めた渡辺家住宅等も残されています。	大多喜町
148	大多喜町役場庁舎（中庁舎）	昭和34年（1959年）に建築家・今井兼次の設計により建設されました。斜面に立地した地上1階・地下1階鉄筋コンクリート造の一字形式の平面で、外部に面する階に議場があります。各所にモダニズム建築の特徴を示す一方で、要所にはモザイク壁画などの装飾がされています。	大多喜町
149	平司洞門記念碑	御宿町の海浜部と山間部の間には峠があり、簡単に行き来することは困難でした。住民たちが苦勞する姿を見て、当時の住民であった神定平司はトンネルを作ろうと考えました。3年6ヶ月の歳月を経てトンネルを開通し、両地域の交流に大きく貢献しました。	御宿町
150	日西墨三国交通発祥記念之碑	609年メキシコへ航海中のサンフランシスコ号が嵐によって座礁。当時の村民総出で救助を行いました。その史実が日本・スペイン・メキシコの交流発祥の発祥といわれています。未来永劫、先人たちの行動を伝えるべく海岸付近の高台に記念碑を建立しました。	御宿町
151	クジラのタレ	ツチクジラの赤身を調味料に漬込み、天日で干した食品です。血抜きをしないツチクジラの肉を使うため、色は黒く味には独特のクセがあり、主に酒肴やおかずとして用いられる南部安房地方の特産品です。	安房地域
152	チッコカタメターノ	酪農の発祥の地とされる、南房総市と鴨川市にまたがる嶺岡地区に伝わる牛乳の加工食品です。熱した牛乳に食物酢を加え加熱すると、チーズに似た「チッコカタメターノ（乳っこ固めたもの）」が出来ます。嶺岡地区の畜産農家では昔から栄養源として食されてきました。	安房地域
153	フラワーライン	館山市下町交差点から南房総市和田町までの約46キロメートルの海岸線の道路が房総フラワーラインと呼ばれます。伊戸から浜浜までの間では、季節の花々が道沿いを彩ります。昭和61年（1986年）には「日本の道百選」にも認定されました。	館山市 南房総市
154	小谷家住宅 青木繁「海の幸」記念館	小谷家住宅は漁業で栄えた布良に残る明治中期の漁家です。屋根を棧瓦葺き、一部を大壁造りとした防火造りとし、伝統的な間取りを脱して、近代的間取り示した特徴があります。また、明治期の洋画家青木繁が寄寓して「海の幸」の制作に係った家としても広く知られています。	館山市
155	安房国一宮 安房神社	平安時代、延喜式神名帳に「名神大社」と格付けされ、鎌倉時代以降は安房国一宮、明治時代には官幣大社に列している安房随一の大神です。天富命が四国の阿波から海路房総へ渡って開拓をおこなった際に、上陸地に祖神を祀ったことに由来すると伝えられています。	館山市
156	安房国司祭やわたんまち	9月中旬に鶴谷八幡宮で行われる安房地方最大の祭礼です。館山市、南房総市の各地から神輿や山車が集まる寄り合い祭りであるのが特徴で、現在は10社の神輿と5社の山車・お船が集結します。	館山市 南房総市

番号	ちば文化資産候補の名称	候補の概要	所在市町村
157	沖ノ島周辺の景観	「歩いて行ける無人島」のキャッチフレーズで有名な沖ノ島は、千葉県のに位置する館山湾の南側に位置する面積約4.6ha、周囲約1kmの陸続きの小島です。また、2017年制作の映画「先生！、、好きになってもいいですか？」のロケ地にもなりました。	館山市
158	崖観音（普門院船形山大福寺）	普門院船形山大福寺は真言宗智山派に属する寺院です。境内の中腹にある朱塗りの観音堂は「崖の観音」と呼ばれています。御堂は火災等により何度か建て替えられましたが、現在のものは大正14年に建設されたものを1年半かけて改修を行い、平成28年に完成したものです。	館山市
159	全国大学フラメンコフェスティバル及び関連行事	全国の大学生が参加し市民団体と連携しながら、他に類のないフラメンコイベントを開催しています。ステージでは大学生が華やかな衣装をまとい、力強く優雅な演舞が披露されます。また、関連イベントとして花火をバックに「花火とフラメンコ」も実施されます。	館山市
160	館山湾花火大会	毎年8月8日に館山湾で開催され、多くの観光客が訪れています。館山湾は海岸線が南北に弧を描いているため、海沿いのどこからでも花火がよく見ることができ、湾いっぱい打ち上げられる約10,000発もの花火は、館山の夏のメインイベントとなっています。	館山市
161	那古寺	養老年元（717年）の創建と伝えられる真言宗の寺院です。かつては鶴谷八幡宮の管理をする別当の地位にあり、戦国期には里見氏関係者が住職に就き、八幡宮を通じた信仰から安房の人々の信仰世界に影響を持ちました。坂東札所霊場第3番札所（結願寺）となっています。	館山市
162	鈍切洞穴	自然の営みでつくられた海食洞穴で、地殻運動によって隆起し、現在は館山湾に面した標高約25mの海岸段丘上にあります。縄文時代後期から使用され、古墳時代には一部が墓所として利用されました。その後は海神を祀る神社として地元漁民の信仰を集めてきました。	館山市
163	南総里見まつり	館山市が戦国武将里見氏や里見氏を題材にした南総里見八犬伝のゆかりの地であることにちなんで開催される秋の一大イベントです。北条海岸をメイン会場に武者行列や戦国合戦絵巻、市内の山車・神輿が集結し披露されます。夜には打ち上げ花火が祭りに花を添えます。	館山市
164	マキの生垣の街並み	マキは、千葉県の木にも選定されている樹種ですが、館山市をはじめ県南部では、防風、防潮、防火などの効果を目的に家の周囲を生垣で囲う際、この木を用いることが多いようです。特に、市内八幡地区ではマキの生垣の連なりが美しい集落景観を形成しています。	館山市
165	大山千枚田と棚田の夜祭り	大山千枚田は、嶺岡の山並みの中にあります。「日本の棚田百選」の中では、東京から一番近い棚田で、3.2haに375枚を数える棚田は階段状に並び、日本の原風景ともいえる素晴らしい田園風景が広がっています。また、秋には3,000本の松明と10,000本のLEDで織りなす「棚田の夜祭り」が開催され、幻想的な夜景を映しだします。	鴨川市
166	大山寺と大山	奈良時代の開創と伝わる大山寺は、長狭平野を一望する高蔵山の山頂近くに位置し、不動堂や仏像、石塔など多くの文化財を有し、古くから雨乞いの霊場として信仰を集めてきました。近くには大山千枚田もあり、のどかな田園風景が守り続けられています。	鴨川市
167	清澄寺と清澄山	清澄山の山頂近くに伽藍を構える清澄寺は奈良時代に開創され、若き日蓮が修行し、立教開宗した地と伝えられています。国指定の「清澄の大杉」をはじめ巨杉に覆われた境内周辺には建造物や石塔、やぐらなどの多くの文化財が残るとともに、周辺の自然と一体となった霊場として信仰を集めてきました。	鴨川市
168	仁右衛門島と仁右衛門旧宅	鴨川市太海浜の目前にぽっかり浮かぶ面積約3万㎡の島で、鎌倉時代の初代平野仁右衛門以来平野家が1戸だけ居住している島です。源頼朝が戦いに敗れて安房へ逃れた際に、ご先祖がかくまったお礼に与えられたという伝説が残された風光明媚な小島で、渡し船で行き来できます。	鴨川市
169	嶺岡牧	嶺岡山一帯の地域は、江戸時代「嶺岡牧」と呼ばれ、馬を養成する江戸幕府直轄の牧でした。8代將軍徳川吉宗の時代に、牛を放牧し、日本で初めて牛乳から乳製品を作ったことから、日本酪農発祥の地と言われ、明治以降の日本の乳業の発展に貢献しました。	南房総市 鴨川市
170	赤まぜ	材料はマグロの赤身、米、酢、砂糖、醤油、しょうがで、マグロの刺し身を細かく切って醤油漬けにしたものと酢を切ったご飯とを混ぜて作ります。旧丸山町と和田町の中山間部に伝わりますが、同じ町内でも海辺には知られておらず、地域の特性がわかる郷土料理です。	南房総市
171	白浜海女まつり	南房総に夏の訪れを告げる白浜海女まつり。海女まつりは、漁業に従事する女性を尊敬しながら、海女操業の伝承と安全・豊漁祈願などを目的に毎年夏に開催されています。最大のハイライトである海女の夜泳は、夜、松明を手にした約100人の海女さんが白装束姿で海に入り、幻想の世界を醸し出します。	南房総市
172	石堂寺と丸山川周辺の景観	奈良時代の開創と伝わる石堂寺は自然豊かな丘陵上に位置し、本堂や多宝塔、山王宮、仏像など多くの文化財が残されています。この他にも、周辺の丸山川流域には、鎌倉・室町時代の領主丸氏ゆかりの城跡や寺、石塔、やぐらを多くみることが出来ます。	南房総市
173	高家神社と庖丁式	日本で唯一、料理の祖神をまつる高家神社は、味噌、醤油の神様として全国に知られています。庖丁式は、烏帽子・直垂をまとい、庖丁とまな箸を用いて、いっさい手をふれることなく真鯛・鯉・真魚鱈などを調理します。5月、10月、11月の年3回行われます。	南房総市

番号	ちば文化資産 候補の名称	候補の概要	所在市町村
174	野島埼灯台	房総半島の最南端に建つ灯台です。慶応2年（1866年）アメリカ、イギリス、フランス、オランダの4ヶ国と結んだ条約により、設けられた日本初の洋式8灯台の一つです。大正14年（1925年）に再建されました。白く輝く姿から「白鳥の灯台」ともよばれています。	南房総市
175	ふしぎな岬の喫茶店	安房郡鋸南町にある明鐘岬には、映画「ふしぎな岬の物語」で登場するカフェのモチーフとなった喫茶店「音楽と珈琲のお店 岬」があります。明鐘岬からは東京湾を望む絶景が広がっています。店内にはジャズが流れ、映画同様のゆったりとした時間が流れています。	鋸南町
176	久留里線の沿線の風景	久留里線の沿線は、田畑と住宅地が点在する、のどかな風景が広がっています。	木更津市 君津市
177	東京湾アクアラインと海ほたるの景観	神奈川県川崎市と木更津市をつなぐ高速道路で、川崎側はトンネル、木更津側はアクアブリッジと呼ばれる橋で、その間に人工島の海ほたるパーキングエリアが設けられています。世界で最大規模の海洋構造物であり、テレビや映画にも多く登場する日本土木界が誇る文化的景観です。	木更津市
178	木更津港まつり	古くから港町として栄えた木更津に、郷土の繁栄の基礎を築いた先覚者の霊を慰めようと、昭和23年にスタートしました。毎年8月14、15日に開催され、市内最大の祭りとして両日とも多くの見物客が訪れます。	木更津市
179	金鈴塚古墳	木更津市長須賀にある墳丘長約90mの古墳時代後期（6世紀末頃）の前方後円墳で、後円部の一部と横穴式石室が保存されています。金製の鈴や装飾付大刀、甲冑、鏡など大量の副葬品が出土し、小櫃川流域にいた首長の古墳と考えられています。	木更津市
180	簀立て	金田中島海岸において、4月から8月までの間、古くから伝わる伝統漁法である「すだて漁」ができます。捕れた魚は、乗って来た船上で天ぷらや刺身、塩焼きなどにして召し上がっていただくこともできます。	木更津市
181	木更津市中島の梵天立て	毎年1月7日未明に、金田・中島区の若い衆が厳寒の海中に梵天を立てる出羽三山信仰の具体的な姿を残す民俗行事です。元禄年間（江戸時代）にふりかかった災難を、出羽三山人の祈祷によるご利益で解決できたことに始まると伝えられています。	木更津市
182	大戸見の神楽	稲荷神社の祭礼に神楽殿で奉納されます。2人立ちの獅子神楽で楽が進むにつれて、人が段々と成長していく過程を表現しています。現在、2つの神楽組が神楽を伝えています。	君津市
183	鹿野山のさんちょこ節	江戸時代から伝承されてきたもので、お盆休みになると女の子が各家々の軒に置かれた縁台の上で、「あやとり棒」を拍子を合わせながら打ち合わせたのが始まりとされています。「さんちょこ」の名前の由来は、「山の頂上の娘」を縮めたものといわれています。	君津市
184	鹿野山のはしご獅子舞	永正元年（1504年）に紀州高野山の僧弘範上人が鹿野山を訪れた際、紀州から移り住んだ木こりたちが、故郷の奥高野を偲び、獅子に託して舞ったのが始まりであると伝えられています。獅子舞は2人一組で、断崖に模した高さ9.4mのはしごの上に登り演じます。	君津市
185	九十九谷展望公園	この公園からは、高岩山など上総丘陵が幾重にも連なる山並みの風景を眼下に一望することができます。これら山谷の織り成す景観を総称して九十九谷と呼ばれています。東山魁夷の出世作「残照」のモチーフとなっています。	君津市
186	久留里の町並み	久留里城の城下町として江戸時代以来整備が行われ、久留里街道（国道410号）沿いには近代建築が残る町の景観つくりられています。また、久留里は良質な水に恵まれ、上総掘りによる井戸が多く見られます。この水を利用した酒造りが盛んです。	君津市
187	清水溪流広場（濃溝の滝・亀岩の洞窟）	季節ごとの景色に癒される自然公園です。写真のトンネルは「川廻し」という工事によって削られたもので、小櫃川流域では万治年間（1660年前後）に野村藤右衛門によって最初の川廻しが行われたとされ、その後周辺に広まったと伝えられています。	君津市
188	神野寺	鹿野山の山上に位置し、広い境内地に雄大な規模を誇ります。寺伝によれば、聖徳太子によって開山されたといわれています。天正19年（1591）、徳川家康が佐貫藩主の内藤家長に伽藍を造営させて以来、霊場として栄えています。	君津市
189	三島の棒術と羯鼓舞	三島の棒術と羯鼓舞は、三島神社の祭礼で演じられます。かつて源頼朝の家来がこの地に土着し、武道に励みながら三島神社に奉納試合として行ったのが棒術の始まりとされています。また、羯鼓舞は雨乞いまつわりの故事をもとに奉納されます。	君津市
190	吾妻神社の馬だし祭り	馬の両脇に二人の青年がしがみついて海岸を疾走する勇壮な神事です。9月の敬老の日前の日曜日に行われます。吾妻神社は日本武尊の身代わりに入水した弟橘媛を祭る神社で、媛の遺品の櫛を馬がくわえて神社に運んだという伝説に因むものです。	富津市
191	浜金谷港とフェリーのある景観	東京湾フェリーは、湾入口の浦賀水道を横断し、神奈川県横浜市久里浜と富津市金谷を約40分で結ぶ貨客フェリーです。この航路は国道16号の実質的な海上区間となり、現在は3代目の「かなや丸」と、2代目の「しらは丸」の2隻が運航しています。	富津市
192	内裏塚古墳	南関東最大の前方後円墳（墳丘長144m）で、5世紀の中頃に築造されました。周辺には総数48基の内裏塚古墳群（5世紀～7世紀）が形成されています。国指定史跡。	富津市



番号	ちば文化資産 候補の名称	候補の概要	所在市町村
193	竹岡式ラーメン	チャーシューのうま味が溶け込んだ醤油ダレがスープの濃味ラーメンです。薬味は玉葱の角切りです。発祥は漁師町である富津市竹岡にあるラーメン店でしたが、現在では県内各地に、独自に工夫した竹岡式ラーメンの店がたくさん出ています。	富津市
194	弁天山古墳	千葉県で最も早く昭和4年（1929年）に国の史跡に指定された前方後円墳（墳丘長87.5m）で、5世紀後半に築造されました。後円部の上に堅穴式石室があり、見学することができます。	富津市
195	鮑富神社の筒粥	毎年、1月14日の夜から15日未明にかけて行われる年中行事です。その年の、米・麦・粟・稗など9種類の農作物の収穫を、葦の中に入った粥の量で占います。行事に必要な役割が家ごとに決まっており、年占いの古い形を残しています。	袖ヶ浦市
196	上総掘りの技術	上総地方で考案された井戸掘削技術です。少人数で千メートルもの掘削ができることから、天然ガスや石油の掘削にも利用されました。この技術は、平成18年に国の重要無形民俗文化財に指定されています。	袖ヶ浦市
197	太巻き寿司	太巻き寿司は、お正月や春祭り、お盆や秋祭り等、年間を通じてお祝い事や行事に各家庭で作られており、祭り寿司とも言われています。お祝い事や行事には親戚中が集まり、酒を酌み交わし世間話をしながら楽しいひと時を過ごしていたそうです。	県内全域
198	京葉臨海コンビナートの夜景	千葉県の東京湾臨海部では、石油化学、鉄鋼、エネルギー等の工業地帯が形成されています。夜になると、工場や港の光が、昼間とは別の景観を工業地帯に映し出します。	千葉市 市原市 袖ヶ浦市
199	小湊鉄道とその沿線の景観	市原市の五井駅と大多喜町の上総中野駅間を結ぶ小湊鉄道は、大正14年（1925年）に五井～里見駅間で開業し、昭和3年（1928年）に全線が開通しました。当時に近い状態のまま使用されている駅舎などが沿線の田園風景に溶け込み、穏やかな景観を構成しています。	市原市 大多喜町
200	下総三山の七年祭り	この祭りは、船橋市・千葉市・八千代市・習志野市から九つの神社が集まる下総地方を代表する寄合祭りです。行事は9月の小祭りと11月の大祭からなり、6年ごとの丑年および未年に行われ、数え年で7年ごとになることから七年祭りと呼ばれています。	船橋市 千葉市 八千代市 習志野市
201	印旛沼と周辺の里山景観	洪水被害の防止、農地開拓、飲料水・工業用水の確保などのため1950～60年代に干拓と水資源開発が進められ、堤防や排水機場等が整備されました。県内の生活や産業を支える重要な水がめとなっているだけでなく、周辺の水田や里山の風景とともに憩いの場にもなっています。	成田市 佐倉市 八千代市 印西市 酒々井町 栄町
202	航空科学博物館と成田空港の景観	航空科学博物館は、成田空港のA滑走路南端に位置し、巨大な成田空港や離着陸する飛行機が間近に見られます。YS11試作機など数多くの飛行機が展示され、シミュレーターなどの体験展示や、飛行機を眺める展望レストランなど飛行機好きに愛されてきました。	芝山町 成田市
203	天保水滸伝を伝えるゆかりの地	飢饉や疲弊で社会不安な天保時代（1830～44）に実在した、笹川繁蔵と飯岡助五郎の二人の俠客の勢力争いは、「天保水滸伝」という物語で浪曲や講談、そして映画となり有名となりました。町にはゆかりの品や場所も多く残り昔から語り伝えられてきました。	東庄町 旭市
204	九十九里大漁節	九十九里浜の沖合は、鯛が多く回遊し、長く続く砂浜は遠浅のため、江戸時代から地曳網漁が発達した「いわし文化」が花開きました。九十九里大漁節は、その活気に沸いた九十九里浜の様子をうたった歌で、白里地区でも九十九里地曳大漁節として継承されています。	九十九里町、 大網白里市 等の九十九里 地域
205	九十九里浜の景観	九十九里浜沿岸は古来から多くの文化の跡が残されています。江戸時代以降はいわし漁等の漁業が盛んとなり、神輿を担いで浜に降りる「浜降り」や「潮踏み」等と呼ばれる習俗が現代まで続いており、海との深いつながりを感じられます。また、高村光太郎の「智恵子抄」の一節「九十九里浜の初夏」等多くの文学作品の舞台となっています。	九十九里浜沿 岸
206	上総十二社祭り	「上総十二社祭り」は、上総国一ノ宮の玉前神社を中心に、祭神・玉依姫とその一族を祀る神社の祭礼です。例大祭では、一宮町といすみ市の五社・九基の神輿と神馬が釣ヶ崎海岸の祭典場に集結し、上半身裸の男たちが神輿を担ぎ、波打ち際を駆け巡る「汐踏み」が勇壮に行われます。	一宮町 いすみ市
207	波の伊八（欄間彫刻）	初代「伊八」武志伊八郎信由は、江戸時代後期の彫刻家です。「波を彫っては天下一」といわれ「波の伊八」の異名で知られるようになりました。その作風は、浮世絵師として有名な葛飾北斎に大きな影響を与えたと言われています。	いすみ市 鴨川市 南房総市 等
208	さんが焼き	アジやイワシ等の魚の身と、ネギ、シソ、生姜、味噌等を混ぜ、包丁でたたきながら練り合わせて作ったなめろうを、軽く焦げ目がつくまで焼いたものを「さんが焼き」といいます。山小屋で焼いたことから「山家（さんが）」の名がついたといわれています。	長生地域 夷隅地域 安房地域 君津地域
209	なめろう	南房総の郷土料理で、あまりの美味しさに皿までなめてしまう事から名前が付けられました。アジやイワシ等の魚の身と、ネギ、シソ、生姜、味噌を混ぜ、包丁でたたきながら練り合わせる料理です。南房総のお鮎屋を中心に各地で食べることが出来ます。	山武地域 安房地域
210	鋸山の房州石石切場と日本寺	富津市と鋸南町の境にある標高329.5mの山で、昭和期までは房州石の石切場となっていました。また、中腹にある日本寺は、奈良時代創建と伝わる関東最古の勧願所で、千五百羅漢像や日本一の高さの磨崖仏の大仏など石仏の宝庫として知られています。山麓から山頂までロープウェイで3分程で行くことができます。	鋸南町 富津市

番号	ちば文化資産 候補の名称	候補の概要	所在市町村
211	潮干狩り	木更津の海岸部は、干潮時には沖合い数百メートルの干潟が広がる東京湾で一番広い海岸です。市内で6箇所の海岸で潮干狩りを楽しむことができ、潮干狩り場で採れるあさは、「肉厚・味がしっかり・ジューシー」でリピーターが多いことで知られています。	木更津市 富津市 船橋市